

東日本大震災の記憶を次世代につなぐ

千歳セントラルロータリークラブ



千歳セントラルロータリークラブ（ＲＣ）は、2013年10月11～12日の2日間の日程で、公募によって集まった地元の中学生10人とともに、東日本大震災の被災地を訪れました。

私たちは震災発生当初から復興支援事業に取り組み、震災発生の1年後にあたる2012年3月11日に千歳ＲＣとともに復興支援事業としてチャリティーイベントを開催し、100万円の収益金を千歳市に避難されていた被災者の方々へ、県人会を通じお渡しすることができました。

以後1年間にわたって被災地を訪問し「今私たちができること」とは何なのかと、宮城県の岩沼ＲＣの協力をいただきながら検証を進めてきました。そして今回、「東日本大震災の記憶を次世代につなぐ」ことが今被災地には必要であると認識し、今回の事業「宮城県岩沼市“千年希望の丘”体験ツアー」を立案し、実施するに至りました。

当初は、10代前半の子どもたちを被災地に派遣し、果たしてどれだけの成果が上がるものかと不安に思いましたが、参加する子どもたちを公募する中で、子どもたちから提出された「参加動機」の小作文に目を通して、私たちが意図して学習する内容を過度に準備することはいらない、と確信しました。子どもたちに、自分たちの

五感で感じ取ってもらうことが、何よりも必要なことなのです。

今回の事業での行程は、地元の岩沼市玉浦中学校への訪問・交流、震災の月命日にあたる日時に献花、命を守る防潮堤“千年希望の丘”での植樹、の3件だけを事前にお願ひし、ほかはすべて、地元の岩沼ＲＣの皆さまへお任せしました。被災者でもある岩沼ＲＣの皆さまにお願ひすることが、子どもたちへ私たちからの唯一の伝言でありました。

参加した子どもたちは、初めての環境と被災地の現実を目の当たりにした緊張感で、はじめは表情が硬いままでしたが、被災地を見学し、地元の方々の話を聞くうち、その表情は真剣なまなざしへと変わっていききました。地元のメディアからのインタビューにも打ち合わせなしで、自分たちが感じたありのままの思いを語るまでになっていました。

わずか1泊2日の日程ではありましたが、参加した子どもたちは、確かに東日本大震災の記憶をつなげてくれるものと信じています。そして、今回の事業で体感したことを大切に、ふるさとを思う気持ち、人への思いやりの心を持ち、元気に成長してくれることを願っています。

（第2510地区 北海道）